

『社会科学ジャーナル』原稿執筆要項

《原稿執筆について》以下の要項にしたがって、原稿の執筆をお願いします。

字数制限

- 論説は、和文の場合は20,000字以内、英文の場合は6,000 words以内とする。本文のほか、論説題目、執筆者氏名、注釈、図表、参考文献リスト等すべてをこの制限字数以内に収めること。ただし、要旨は字数制限に含めない。
- 研究ノートは、和文の場合は12,000字以内、英文の場合は3,600 words以内を目安とする。本文のほか、論説題目、執筆者氏名、注釈、図表、参考文献リスト等すべてをこの制限字数以内に収めること。ただし、要旨（下記参照）は字数制限に含めない。
- 目安として、図表は、1ページ分（横11.4センチ、縦17センチ）は1,000字（和文）/310 words（英文）に相当するものとする。

要旨

- 論説と研究ノートには英文要旨（600 words以内、表題を含む）を提出してください。
※ 社会科学ジャーナルには英文要旨が掲載され、CiNii及び社会科学研究所のホームページに全文が掲載されます。

ページ番号

- ページ番号は、全ページに通しでつける。

項目番号

- 章、節などの項目は以下の記号を用いて表示する。
 - I.（章：ローマ数字にピリオド）
 - 1.（節〔上位〕：算用数字にピリオド）
 - (1)（節〔下位〕：両括弧付き算用数字）

注釈・参考文献

- 注釈・参考文献は下記《注釈・参考文献の書き方》に詳述する書式（Chicago Manual of Style: Humanities Style もしくはAPA Style）に沿って作成してください。詳細は本要項の《注釈・参考文献の書き方》を参照してください。

図 表

- 図・表等はなるべく印刷される原稿に近いかたちで本文中に挿入する。
- 図表の大きさは、出典情報などを含め最大で、横 11.4 センチ、縦 17 センチ以内に収めること。
- 引用した図表には、出典情報を付記すること。

その他

- コンピューターで入力できない特殊な文字・記号・数式等は原稿に手書きの赤で直接記入する。

《原稿提出について》

提出の際には以下の点を確認のうえ、印刷した原稿を 2 部と、その原稿を保存したフロッピーディスクもしくは CD-ROM を併せて提出してください（MO 等、他のメディア形式は受け付けません）。なお、提出された原稿およびフロッピーディスクや CD-ROM は返却しません。

1. フロッピーディスクもしくは CD-ROM には、氏名、原稿ファイル名に加え、作成に際して用いた PC の OS とアプリケーション名（例：MacOS-10.4.1, MSWord 2004）を明記してください。

* 当研究所で読み込み不可能なアプリケーションを使用している場合は、メディアの提出後に「TEXT 形式」への変換を依頼することもあります。また、圧縮ソフトによりファイルを圧縮しないでください。

2. 当研究所で編集後、原則として 1 回著者校正を依頼します。詳しい日程などについては、後日通知します。
3. 提出された原稿、メディア、及び初校・再校原稿は、原則として 5 年間当研究所にて保管します。
4. 提出先は、以下の住所へ郵送もしくは直接持参してください。

〒181-8585 三鷹市大沢 3-10-2

国際基督教大学社会科学研究所

『社会科学ジャーナル』編集担当

《注釈・参考文献の付け方》

日本語論文の注釈・参考文献の表記方式は、従来通りの（1）Chicago Manual of Style の humanities style に基づくか、もしくは（2）APA Style に基づいて作成してください。なお、表記例は、下記に（1）、（2）の順に示されています。

<注釈・参考文献の作成手順および表記例>

[1] Chicago Manual of Style: Humanities Style

注釈および引用は本文中の登場順に括弧付きの上付き数字で注に通し番号を振り、本文末に列挙する。引用については原典の著者名および掲載ページ番号等の文献情報、さらに必要であれば引用に関する注釈をつける。参考文献リストを作成する場合は、参考文献リストに必要な情報をすべて含めた上で文末注における文献情報を略記する。

1. 日本語単行本の引用例

- **本文中における引用方法**

…である。⁽¹⁾

※ 句読点やかぎカッコの後に上付き文字で記載する。

- **文末注における記載方法**

(1) 櫻井雅夫『カントリー・リスクー海外取引の危険にどう対応するかー』 有斐閣選書 422. (東京：有斐閣, 1982年), pp. 11-12.

※ 単行本のタイトルを二重かぎカッコ『』に入れる。

※ 文末注では(出版社所在地：出版社名、発表年)と括弧付きで記述する。

※ 引用した箇所のページ番号を明記する。

※ 同じ文献から複数回引用する場合、2度目以降は文献情報を略記することが望ましい。略記は通常、著者の姓、文献の主題、そして引用箇所のページ番号を記述する。たとえば、上記文献を再度引用する場合は以下のように略記できる。

(3) 櫻井『カントリー・リスク』 p.15

- **参考文献リストを作成する場合の記載方法**

櫻井雅夫『カントリー・リスクー海外取引の危険にどう対応するかー』 有斐閣選書 422. 東京：有斐閣, 1982年.

※ 参考文献では「出版社所在地：出版社名、発表年」に括弧を付けない。

※ 参考文献リストを作成する場合、文末注は初出から文献情報を略記する。

2. 日本語論文および記事等の引用例

- **本文中における引用方法**

…となる。⁽¹⁾

※ 句読点やかぎカッコの後に上付き文字で記載する。

- **文末注における記載方法**

(1) 石渡茂「民間企業資本ストック推計の問題と課題ー推計の方法を中心としてー」『社会科学ジャーナル』 (国際基督教大学) 48号, 2002年, 20.

- ※ 論文タイトルをかぎカッコ「」に入れる。
- ※ 単行本のタイトルを二重かぎカッコ『』に入れる。
- ※ 大学の論文紀要等、掲載誌の発行部数が少ない場合は、発行した機関名を誌名の後にカッコ付きで記載する。
- ※ 引用した箇所のページ番号を明記する。
- ※ 引用箇所について注釈がある場合は、それも合わせて記述する。
- ※ 同じ文献から複数回引用する場合、2度目以降は文献情報を略記することが望ましい（詳しくは文末に記した櫻井『レポート・論文の書き方 上級』を参照）。略記は通常、著者の姓、文献の主題、そして引用箇所のページ番号を記述する。たとえば、上記文献を再度引用する場合は以下のように略記できる。

(3) 石渡「民間企業資本ストック推計の問題と課題」 p.15

- **参考文献リストを作成する場合の記載方法**

石渡茂「民間企業資本ストック推計の問題と課題－推計の方法を中心として－」『社会科学ジャーナル』（国際基督教大学）48号, 2002年, 19-36.

- ※ 上述「文末注における記載方法」の注意事項のほか、論文が所収されているページ番号を明記する。
- ※ 参考文献リストを作成する場合、文末注は初出から文献情報を略記する。

3. 英語単行本の引用例

- **本文中における引用方法**

…one author estimates that those employed as professionals…constituted 18 percent of the labor force in Manila.⁽¹⁾

- ※ ピリオドやコンマ、クォーテーションマークの後に上付き文字で記載する。

- **文末注における記載方法**

(1) Daniel F. Doepfers. *Manila, 1900-1941: Social Change in Late Colonial Metropolis.* (New Haven, Connecticut: Yale University Southeast Asia Studies, 1984), 53.

- ※ 著者名は姓名を記述する。ミドルネームはイニシャルで略記してもよい。
- ※ 単行本のタイトルをイタリック（斜体文字）で記述する。
- ※ （出版社所在地：出版社名、発表年）を括弧に入れて記述する。
- ※ 引用した箇所のページ番号を明記する。
- ※ 引用箇所について注釈がある場合は、それも合わせて記述する。
- ※ 同じ文献から複数回引用する場合、2度目以降は文献情報を略記することが望ましい（詳しくは文末に記した *The Chicago Manual of Style* を参照）。略記は通常、著者の姓、文献の主題、そして引用箇所のページ番号を記述する。たとえば、上記文献を再度引用する場合は以下のように略記できる。

(3) Doepfers, Manila, 1900-1941, 56.

- **参考文献リストを作成する場合の記載方法**

Doeppers, D. F. *Manila, 1900-1941: Social Change in Late Colonial Metropolis*. New Haven, Connecticut: Yale University Southeast Asia Studies, 1984.

- ※ 著者名は姓を先に記述し、名・ミドルネームはイニシャルで略記してもよい。
- ※ 参考文献の項では、出版社所在地：出版社名、発表年は括弧に入れない。
- ※ 参考文献リストを作成する場合、文末注は初出から文献情報を略記する。

4. **英語論文等定期刊行物の引用例**

- **本文中における引用方法**

...An inaccurate or incomplete reference “will stand in print as an annoyance to future investigators and a monument to the writer's carelessness.”⁽¹⁾

- ※ ピリオドやコンマ、クォーテーションマークの後に上付き文字で記載する。

- **文末注における記載方法**

(1) Bruner, J. S. (1942). Of psychological writing: Being some valedictory remarks on style. *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 37(2), 68-82.

- ※ 著者名は姓名を記述する。ミドルネームはイニシャルで略記してもよい。
- ※ 単行本のタイトルをイタリック（斜体文字）で記述する。
- ※ 文末注では、掲載誌名、掲載号番号、発表年を括弧に入れる。
- ※ 引用した箇所のページ番号を明記する。
- ※ 引用箇所について注釈がある場合は、それも合わせて記述する。
- ※ 同じ文献から複数回引用する場合、2度目以降は文献情報を略記することが望ましい（詳しくは文末に記した *The Chicago Manual of Style* を参照）。略記は通常、著者の姓、文献の主題、そして引用箇所のページ番号を記述する。たとえば、上記文献を再度引用する場合は以下のように略記できる。

(3) Bruner, Of psychological writing, 56.

- **参考文献リストを作成する場合の記載方法**

Bruner, J. S. “Of psychological writing: Being some valedictory remarks on style.” *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 37, 1942, 52-70.

- ※ 著者名は姓を先に記述し、名・ミドルネームはイニシャルで略記してもよい。
- ※ 参考文献の項では、掲載誌名、掲載号番号、発表年は括弧に入れない。
- ※ 参考文献リストを作成する場合、文末注は初出から文献情報を略記する。

- 参考文献リストを作成する場合は、すべての言語のものを一つのリストにまとめ、著者姓のアルファベット順に並べるか、もしくは言語別に、当該言語の語順（e.g. 日本語であれば五十音順）に並べて表記する。

- ※ 同一著者による文献が2つ以上ある場合は、発行年の古い順に記載する。

- ※ 同一著者による単著文献と共著文献がある場合は、単著文献を先に記載し、共著論文は第2著者の名のアルファベット順に並べる。
- ※ 同一著者による同年に発表の文献が複数ある場合は、発表順に（1999a）（1999b）と記述して区別する。
- 参考文献においては、各文献の1行目は行頭から記入し、1行に収まらない場合、2行目以降は日本語2文字分の「ぶら下がりインデント」にする。

《日・英以外の言語で書かれた文献名の表記方法》

- (1) 原著タイトルをアルファベット表記する。

例) Cesbron, Henry. *Histoire critique de l'hysterie*.

- (2) 原著タイトルの英訳・和訳がある場合はタイトルのアルファベット表記に翻訳を加える。

例) Henryk Wereszynski, *Koniec sojuszu trzech cesarzy* (*The end of the Three Emperors' League; summary in German*).

◆ 注釈・参考文献について、詳しくは以下の該当部分等を参照してください。

- 和文：櫻井雅夫『レポート・論文の書き方 上級』東京：慶應義塾大学出版会，1998年，71-131頁。
- *The Chicago Manual of Style* 15th Edition. Chicago: The University of Chicago Press, 2003.
- http://www.chicagomanualofstyle.org/tools_citationguide.html (Chicago Manual of Style 公式ホームページ)

[2] APA Style

原稿に情報を追加するために注を使用する場合は、文末注ではなく脚注をつけること。参考文献は脚注の中に含めるのではなく、本文の参考文献の箇所に別途含めなければならない。

原稿の中に出典を引用する際に、テキストはその著者、著作が出版された日付（表記例は下記を参照）。

参考文献リストは、原稿の最後に置かれなければならない。原則として、本文中に引用されるすべての出典は、参考文献リストに示されなければならない。参考文献リストを準備する際の詳細に関しては、以下の節を参照のこと。

1. 本文中での出典の引用法：

1.1. 単独の著者によって書かれた文献の引用：

- 以下の最初の例のように、ある著者の氏名が叙述の一部として現れる場合、後ろで括弧の中に出版年を入れること。もしくは、(二番目のように)名前と出版年をコンマによって区分し、括弧でくくること。

Doeppers (1984) によればマニラでは.....

or

.....マニラでは.....と推定する研究者もいる (Doeppers, 1984)。

1.2. 複数の著者によって書かれた文献の引用：

- 文献が二人の著者によって書かれている場合、テキストの中で参照するすべてにおいて両者の名前を常に引用すること。

Ryan and Deci (2000) のレビュー論文によれば...

or

最近のレビュー論文 (Ryan & Deci, 2000)によれば...

- **3名から5名の著者によって書かれた文献の場合：**初めての引用の場合、著者全員を引用すること。そして、次の引用では、第一著者の姓だけを含み、それ以降は“et al”をつけること (al の後に年号をつける)。

[最初の引用] Dweck, Mangels, and Good (2004) によれば...

[それ以降の引用] ...と Dweck et al. (2004) は主張する。

- **6名もしくはそれ以上の著者によって書かれた文献の場合：**第一著者の姓だけを含み、それ以降は“et al.”をつけること (al.の後に年号をつける)。すべての著者は参考文献リストに含まなければならない。

1.3. グループもしくは組織によって書かれた文献の引用：

- 著者として取り扱われるグループの名前が、最初に引用されたとき、つづりを省略せずに完全な公式名称を記載しなければならない。それ以降は、省略形で表すことがある (名称を省略するかどうかの判断は、読者が本文引用において参考文献リストで該当する項目を容易に探し当てるのに十分な情報を提供する必要があるという一般原則にしたがうこと)。参考文献リストには、その名称を省略せずに記載すること。

[最初の引用] (American Psychological Association [APA], 2009)

[それ以降の引用] (APA, 2009)

2. 参考文献リストの作成法

2.1. 基本ルール

- 原則として、テキスト内で引用されるすべての出所は、参考文献リストに挙げられていなければならない¹。
- 出所は、第一著者の姓をアルファベット順で並べること。

¹ Eメールや書簡のように広くアクセスできない原典からの情報は、参考文献リストに含めない。詳細は、the *Publication Manual of the American Psychological Association* を参照。もしくは、APA 著『APA 論文作成マニュアル』医学書院の p.175 の「私信」の項目を参照。

- ◆ 同一の著者による複数の著作を引用する場合、上から年代的に古い順から並べること。
- ◆ 単独の著者による著作は、複数の著者を持つ著作で第一著者が同じ名前の場合、単独のものを前に記載すること。例えば、“Bandura, A. (1977)” は、“Bandura, A., Ross, D., & Ross, S. A. (1961)” よりも前に記載すること。

Bandura, A. (1977)....

Bandura, A., Ross, D., & Ross, S. A. (1961)....

- ◆ 最初の著者が同じで、二番目の著者が異なる著作の場合、二番目の著者の姓のアルファベット順で記載すること。もし第一著者と第二著者が同じで、三番目の著者が異なる場合、三番目の著者の姓のアルファベット順で記載すること。
- ◆ 同じ発行年で同じ著者の文献は、括弧の中に出版年を入れ、それに続きタイトルのアルファベット順に並べる²。

Baheti, J. R. (2001a). Control...

Baheti, J. R. (2001b). Roles of...

2.2. 書籍の引用：

- 基本形としては以下の例を参照。

Doeppers, D. F. (1984). *Manila, 1900-1941: Social Change in Late Colonial Metropolis*. New Haven, Connecticut: Yale University Southeast Asia Studies Monograph Series.

- ◆ 段落の第1行の頭だけを出して2行目以下を下げて組むこと。
- ◆ 著者の姓が最初に来て、その次に名前、ミドルネームのイニシャルが続く。
この様式は、二番目以降の著者にも適用される。
- ◆ 出版年が続き、それをカッコで括弧すること。
- ◆ 本のタイトルはイタリックにすること。本のタイトルの最初は大文字にすること。
- ◆ 次に、出版地が来て、コロンを挟んで出版社名がくる。出版地：出版社。

2.3. 定期刊行物の論文の引用：

- 基本形としては以下の例を参照。

Bruner, J. S. (1942). Of psychological writing: Being some valedictory remarks on style. *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 37, 52-70.

- ◆ 基本的に書籍の一覧表作成の場合と同様だが、相違点は以下の通り。
- ◆ 論文のタイトルをイタリックにはせず、最初の文字だけ大文字にして、それ以降の単語の最初の文字は大文字にしないこと。上記の例にあるように、その例外としては、コロンが使用された後は大文字で始める。
- ◆ 定期刊行物のタイトルはイタリックにして、文字の最初を大文字にすること。論文が掲載されている定期刊行物の巻とページ番号を記載すること。
- ◆ 出版社情報を含める必要はない。ただし、定期刊行物の発行部数が限られている場合は、出版社情報を含めることが望ましい。

² ただし、文献がシリーズもの場合は、シリーズ順に a, b, c...をつけること。

(例) “*Journal of Social Science* (International Christian University), 54...”

2.4. 書籍の中の章の引用：

▶ 基本形としては以下の例を参照。

Zimmerman, B. J., & Schunk, D. H. (2004). Self-regulating intellectual processes and outcomes: A social cognitive perspective. In D. Y. Dai & R. J. Sternberg (Eds.), *Motivation, Emotion, and Cognition* (pp.323-349). Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.

- ◆ 基本的には、書籍の一覧表作成の場合と同様だが、相違点は以下の通り。
- ◆ 章のタイトルはイタリックにはせず、最初の文字だけ大文字にして、それ以降の単語の最初の文字は大文字にしないこと。上記の例にあるように、その例外としては、コロンが使用された後は大文字で始める。
- ◆ 章のタイトルの後は、編者の名前を載せること。イニシャルの個人名とミドルネームが最初に来て、その後に姓がくることに注意。
- ◆ 書籍のタイトルはイタリックにして、各単語の最初の文字は大文字にすること。章が掲載されているページを記載することを忘れないように。

2.5. オンライン上の文書の引用：

▶ 基本形としては、以下の例を参照。

American Psychological Association (2009). *Learning APA Style*. (July, 2009). Retrieved October 1, 2009, from <http://www.apastyle.org/learn/index.aspx>

- ◆ オンライン上の文書のタイトルはイタリックにすること。
- ◆ 可能なら文書が公表された日付を記載すること。
- ◆ インターネット・アドレスとアクセスした日付の記載を忘れないこと。 インターネット・アドレスを記載する際に、最後にピリオドをつけないこと。

※その他の APA Style の詳細に関しては、*Publication Manual of the American Psychological Association* を参照してください (ほとんどの大学の図書館で利用できます)。ウェブサイト“Learning APA Style”も、チュートリアルを掲載しています。